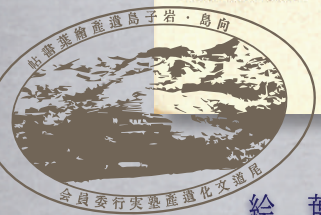
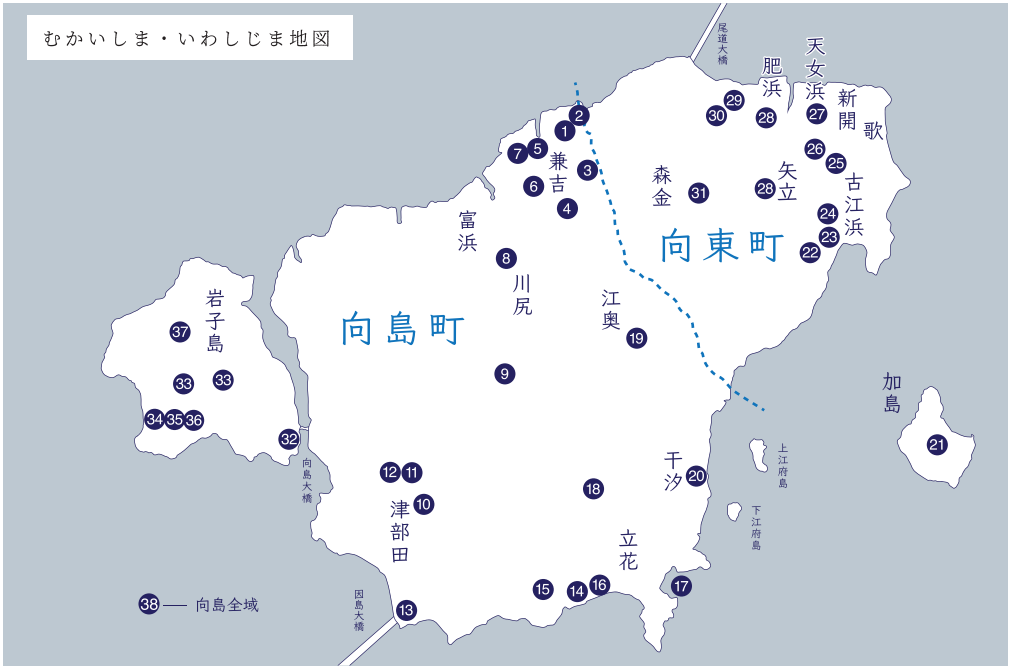
Heritage of Mukaishima/Iwashijima



尾道文化遺産マップ3

絵葉書帖【むかいしま・いわしじま】


むかいしま・いわしじま地図
尾道大橋
天女浜
肥浜
新開
歌
古江浜
矢立
森金
向東町
兼吉
富浜
川尻
向島町
江奥
岩子島
加島
上江府島
下江府島
干汐
立花
津部田
向島大橋
因島大橋
38 向島全域
民俗
民俗遺産
風景
風景遺産
文化芸能
文化芸能遺産
歴史
歴史遺産
石造
石造遺産
人物
人物遺産
カテゴリ分類

尾道文化遺産マップの趣旨

文化財の指定にはないものの、地域の歴史・民俗・景観を伝える地域遺産として、守りたい、伝えたいものにスポットを当てるものです。

初回の港町（尾道旧市街地）・里山（御調）編、前作の因島編に続いては、尾道対岸に位置する向島（東西）、その西に位置する岩子島から、そうした地域遺産を拾い集めてみました。

ここでピックアップされたものはあくまでも一部に過ぎず、まだまだ掘り起こせば埋もれた地域遺産は見出せると思います。

ありきたりではない、ちょっとディープな向島・岩子島散策のお伴にお届けする、向島・岩子島遺産の絵葉書帖。

散策の中で、自分だけのマイ向島・岩子島絵葉書を切り撮ってみてください。

尾道文化遺産塾実行委員会製

01 壮観なる尾道パノラマ

【向島・兼吉】

兼吉の龍王山（兼吉の丘は通称）から一望される尾道市街のパノラマ全景は、その昔の写真絵葉書でも格好の題材だった。

東から瑠璃山（浄土寺山）、愛宕山（西国寺山）、大宝山（千光寺山）の尾道三山の配置も綺麗に望まれ、三山と尾道水道に挟まれた猫の額のような街並みと後背地が、生粋の尾道町の範囲となる。

龍王山の頂上部は一本松と呼ばれ、竜王神と刻む碑が建つ。山の名前も然りで、古くは雨乞いの山でもあった。

中腹に在った日立造船の保養所「秀山荘」は、宿泊施設として再生されて新たな歴史を刻んでいる。

※表紙写真絵葉書が戦前の風景になり、山頂に一本の松が見える。

マラノパ道尾ルナ観壮　　壱

Heritage of Mukaishima/Iwashijima

02 ロケセットの待合室

【向島・兼吉】

兼吉桟橋の前にあるバス停には、宮崎アニメにでも出てきそうな随分と雰囲気のある待合室が併設されている。

雰囲気があるのも当然、大林宣彦監督作品の新尾道三部作「あした」で製作されたロケセットになる。

劇中では架空の港・呼子港待合室として登場し、汽船の看板や浮輪が見られるのもそのため。

撮影終了後、尾道で大林映画を支えた地元有志が保存に乗出し、同じく劇中に登場した船・呼子丸の保存と共に向島町に働きかけ、待合室はバス停として移築、保存活用される事になった（船は老朽で保存叶わず）。

室合待ノトッセケロ　弐
Heritage of Mukaishima/Iwashijima

03

捕虜収容所と紡績工場の記憶

【向島・兼吉】

戦時中、兼吉には捕虜の収容所があった。収容所建物はレンガ造りの工場で、松本帆布工場として大正8年（1919）に建造されたものだった。

戦後は向島紡績の工場として稼働し、平成24年（2012）の廃業まで、ノコギリ型屋根のレンガ工場として親しまれた。

平成14年（2002）には、収容所の歴史を伝え、日英友好の証としてのメモリアルプレートが工場の壁に設置された。

工場跡地の一角に建つプレートはそれを移設保存したもので、移設費用は30万個に及ぶレンガの内の5万個が販売されて充てられた。

憶記ノ場工績紡ト所容敢虜捕　　參

Heritage of Mukaishima/Iwashijima

04 亀森八幡宮と除虫菊神社

【向島・兼吉】

旧向島西村の氏神である亀森八幡宮は、社伝によると宝亀元年（770）に藤原百川が宇佐神宮の分霊を勧請した事に始まるという。

明治4年（1871）に制定されて昭和21年（1946）まで続いた神社の格付けでは、国レベルの官幣・国幣以下、府県、郷、村、無格社と続き、大半が村社以下に列する中で県社の位置にあった。

境内には珍しい除虫菊神社（写真）があり、祭神の上山英一郎翁は蚊取り線香で著名な大日本除虫菊株式会社（金鳥）創業者になる。

向島、因島と島嶼部を中心に瀬戸内では除虫菊栽培が盛んに行われていた。

社神菊虫除ト宮幡八森亀　四
Heritage of Mukaishima/Iwashijima

05

富浜塩田の歴史を伝える　嚴島神社

【向島・富浜】

学校や住宅が建ち並ぶ富浜地区一帯には、その昔には塩田が大きく広がった。

東富浜に鎮座する嚴島神社は、富浜塩田の守護神として江戸時代より祀られたもので、境内には塩田の開拓者である豪商（浜旦那）天満屋（富島）浄友（天満屋は屋号）の墓碑も建つ（尾道市重要文化財）。

富島氏は広島藩主浅野氏のお抱え商人で、浅野氏と共に紀州和歌山から広島入りし、酒造業を興して財を成した。浄友はその2代目になる。

同社では年に一度の例大祭はもとより、季節の行事を積極的に企画・発信されており、その試みは地域コミュニティの新たな形・場としても注目される。

Heritage of Mukaishima/Iwashijima

社神島嚴　ルエ傳ヲ史歴ノ田盥濱富　　伍

06 石工の遊び心が漂う手水鉢（ちょうずばち）

【向島・富浜】

厳島神社境内の手水鉢は何ともユニークな造り。円形の玉の割れ目に手水の口があり、玉の上には唐獅子（からじし）（狛犬に同じく）が乗る。

その片足は伸びをするようにダラリと突き出されており、どこかくつろいだ感が漂う。

玉乗り型の狛犬は尾道型（広島型とも）と称されて、尾道石工（いしく）の技を伝える特色とも言われるが、遊び心溢れるその意匠に尾道石工の粋と余裕のほどが窺われる。

高さ160㎝・幅130㎝ほど。天保（てんぽう）6年（1835）12月、玉光太兵衛作（刻銘より）。

背面もお見事

鉢水手ウ漂ガ心ヒ遊ノ工石　六
Heritage of Mukaishima/Iwashijima

07 善行を伝える女神の像

【向島・富浜】

向島中学校の校門傍に建つ女神像。作は御調町出身の彫刻家で文化勲章受章者、名誉県民・市民である圓鍔勝三（えんつばかつぞう）氏（１９０５～２００３）。作品タイトルは「巣立つ頃」。

昭和27年（１９５２）に設置された経緯には、次のような善行美談が秘められている。

像が建てられた前年（昭和26年）の春、修学旅行で奈良の若草山を訪れた向島中３年生がゴミ拾いをし、それを見た外国人観光客が感激し、学校へ金一封を贈った。

この善行の記憶を永く留め、伝えようと圓鍔氏に依頼して記念の像が建てられ、その後風雪で傷んだ為、昭和52年（１９７７）に同じく圓鍔氏によりブロンズ像で再建されたというもの。

像ノ神女ルエ傳ヲ行善　七

Heritage of Mukaishima/Iwashijima

08 江尻地蔵と地蔵祭の記憶

【向島・富浜】

中富浜の江尻川堤防の上に建つ石地蔵・江尻地蔵尊には、お参りされる人が多く、取材に訪れた時も若い方からお年寄りまでの姿があった。

昔から地域の守り神のように信仰された江尻地蔵は、火難・病難に霊験あらたかとされ、古老の証言では地域内の火事も聞かないという。

子どもを守るお地蔵さんらしく、旧暦6月23日の地蔵祭には、子ども達がその世話を取り仕切り、接待や清掃の役を担ったという昔話を伝える。

子ども達による地蔵祭の風景は廃絶しているものの、老若男女問わず地域の人々の拠り所となっているようだ。

憶記ノ祭藏地ト藏地尻江　八
Heritage of Mukaishima/Iwashijima

09

絵になる水面（みなも）

川尻（かわしり）新池

【向島・川尻】

本四高速向島インター手前、国道３１７号線から高見山・洋らんセンター方面へ抜ける道の曲がり角に広がる大きな池（川尻新池）は、町内最大の溜め池であり、睡蓮（すいれん）が美しく映えるスポットとしても知られる。

春には畔に咲く桜から舞い落ちた花びらが水面を染め、蓮（はす）の花と共に絵画のような絵になる風景が描き出される。

池新尻川　面水ルナニ繪　　九
Heritage of Mukaishima/Iwashijima

10 棋士・半田道玄を讃え偲ぶ

【向島・津部田】

市技として囲碁のまちづくりを進める尾道にあって、その源は因島外浦町出身の本因坊秀策の存在にあるが、それに続く存在として忘れてはならないのが向島町津部田出身の半田道玄（1915～1974、本名は早巳）。

秀策同様、幼少の頃から囲碁の才を認められる存在だった。結核で片肺を失うも精進を重ね、昭和38年（1963）に三大タイトルの一つ第二期十段位戦、以降、第八期、第十一期と続けて王座を獲得する金字塔を樹立した。

長福寺はその菩提寺であり、山門傍らには、その存在と偉業を伝える顕彰碑が建つ。

ブ髄エ譖ラ玄道田半・士棋　　拾
Heritage of Mukaishima/Iwashijima

11 躍動感溢れる狛犬の妙技

【向島・津部田】

まずはその珍しい社号に関心が向かれる五烏神社。

由来として、平清盛を伴い宮島厳島参詣の途次にあった高倉天皇が、この地に船を寄せて海上安全を祈願した。その日が真冬の木枯らし吹きすさぶ日であった事から「木枯し社」と…、又、祈願の折に五羽の烏が現れたので「五烏」、或いは烏は神の使いと目されて「御烏」と称するなどの諸説がある。

境内奥の狛犬は刻銘によると幕末の文久2年（1862）の9月、氏子による寄進になるが、それとは別の狛犬（昭和15・1940年築造）の片方（阿吽の内の阿）は、アクロバット的な妙技を披露している。

技妙ノ犬狛ルレ溢感動躍　　壱拾

Heritage of Mukaishima/Iwashijima

12 三矢の智将を偲ぶ小早川神社

【向島・津部田】

その死に際し、これでこの国に賢者は居なくなったと、かの名軍師・黒田官兵衛に嘆かせた戦国武将こそ、毛利三矢の智将として歴史にその名を残す小早川隆景である。

五烏神社の由緒によると、天正２年（１５７４）、武運長久を祈って隆景が社殿を建てたとし、境内社として小早川隆景を祀る小早川神社も見られる。

小早川神社は江戸時代の寛永年間（１６２４～４４）に、半田與左衛門胤信が建立したと伝え、半田家は、隆景に仕えた家臣の一人だった。

社神川早小ブ憑ヲ將智ノ矢三　弐拾
Heritage of Mukaishima/Iwashijima

13 犬吼崎・お台場跡

【向島・立花】

因島大橋の向島側橋脚下、布刈瀬戸に突き出た岬・犬吼崎は、お台場跡でもある。

東京台場も然り、幕末の黒船襲来に備えて設置された砲台跡で、向島立花のお台場は元治元年（１８６４）に広島藩の命によって築造された。

布刈瀬戸を挟んで対岸の因島大浜にも台場が設置され（前作の因島遺産絵葉書帖に収録）、共に交通の要地であった布刈瀬戸に睨みを利かせていた。

そんな緊張感に満ちた史跡も、今では釣り人達が長閑に釣り糸を垂れる光景が広がっている。

Heritage of Mukaishima/Iwashijima
跡場台オ・崎吼犬　　参拾

14 日本一の健康長寿村

【向島・立花】

向島南岸の立花地区（旧立花村）は、「日本一の長寿村」として一時期注目を集めた過去がある。

国勢調査により長寿率（人口に対して70歳以上が占める割合）の高さが確認され、調査にあたった東北大学名誉教授で医学博士の近藤正二氏（1893～1977）の報告によれば、地元に見られるヘルシーな食習慣と自然環境が要因として指摘された。

向島町時代には、健康ブームを追い風に、長寿日本一の歴史を見返したまちおこしが展開され、立花自然活用村で地元食材を用いた長寿料理が提供された時期もあった。

村壽長康健ノ一本日　四拾　Heritage of Mukaishima/Iwashijima

15 村上海賊ゆかりの妙見さん

【向島・立花】

立花海岸を見下ろす山の上に、妙見さんのお宮は在る。正式な社号は国津神社らしいが、妙見宮（社）で通り、山の名前も妙見山という。

村上海賊・因島村上氏で立花余崎城主・村上吉豊が創建し、立花村の氏神として尊崇された由緒を秘める妙見さん。因みに妙見信仰は北斗七星（北極星）を祀る信仰で、仏教や道教の色も混じる。

江戸時代の天和3年（1683）、村を襲った山津波により、村人の多くが久山田村へ避難した。この時、妙見さんも久山田の地へ勧請された。

被災以降は荒廃していた本家立花の妙見さんも次第に復興成り、戦後には地元有力者の篤志により整備されるなどして、その歴史と威厳が今も保たれている。

ンサ見妙ノリカユ賊海上村　伍拾
Heritage of Mukaishima/Iwashijima

16 海を見つめるコンピラさん

【向島・立花】

立花ビーチの東端に、海に向かって並び建つ祠は、コンピラ（金毘羅）さん。

四国讃岐の金刀比羅宮の分社は、石灯籠（常夜灯）の形を含め大小その数は多い。海上安全を祈る信仰だけに、この場所はまことにお誂え向きに映る。

傍らに建つ立派な常夜灯もコンピラ灯篭になり、昭和20年（１９４５）前後までは防犯灯の役割も果たしていたという。

並んで厳島神社の遥拝石も見られる。遥拝とは遠隔地のお宮にこの場所から拝礼する、サテライト参拝所といったところ。

ンサラピンコルメツ見ヲ海　　六拾
Heritage of Mukaishima/Iwashijima

17 村上海賊の船隠し跡

【向島・立花】

立花海岸に突き出た観音崎の岬は、因島村上氏の出城の一つ「余崎城」の城跡でもある。その東の深浦と呼ばれる入湾は、村上海賊の船隠し跡になる。

村上海賊は、領海沖合を通過する船から通行の安全を保障する税金（通行税）を徴収していた訳だが、布刈瀬戸に入った船を確認すると、船隠しに待機していた船団が出動したのである。

余崎城址西側の沖条と呼ばれる浦も、同様に船隠しの機能にあったともいう。

跡シ隠船ノ賊海上村　七拾
Heritage of Mukaishima/Iwashijima

18 国立公園高見山の勝景（しょうけい）

【向島・立花】

向島のランドマークとして親しまれる国立公園高見山（標高２８３ｍ）の山頂からは、瀬戸内に広がる大小の島々から、遠くは四国山脈までを一望できる。

戦前に編まれた地元地誌（『備後向嶋岩子島史』）には、「山頂の眺望は蓋（けだ）し絶佳（ぜっか）天下一品と謂（いわ）れている」とその勝景が讃えられ、初日の出に始まり四季を通じて遠足遊覧地に最適とする。

戦後も山頂への登山道路開設に始まり（自衛隊に委託して実施）、地元テレビ局による中継基地の設置、因島大橋着工の翌年には「瀬戸のうたみち」と銘打った句碑・歌碑の散策道整備、民間投資による観光ホテル開発など、観光拠点として注目を集める事にもなった。

景勝ノ山見高園公立国　　八拾
Heritage of Mukaishima/Iwashijima

19

養蚕のメッカを伝える

【向島・江奥】

歴史ある向島の産業と言えば、造船や柑橘栽培がまず思い浮かべられるが、加えて養蚕業も盛んだったようだ。

当地方の養蚕業は明治の末頃から盛んになったようで、なかでも向島西村は県内トップクラスの一大産地を成し、江奥地区がその中心だったという。最盛期に見た江奥の養蚕農家は、実に109戸に上った。

草創期の頃には、最新技術を習得すべく、江奥から遠く福島県まで出向き、研修に努めた話も残る。

江奥の青木神社境内には、そんな草創期の明治22年（1889）に祀られた蚕の神・豊栄神社がある。一時期忘れられた存在になっていたが、平成15年（2003）に地元有志の手で復興された。

ルエ傳ヲカッメノ蚕養　　九拾
Heritage of Mukaishima/Iwashijima

20 干汐厳島神社の奇石

【向島・干汐】

干汐海岸から山側へ入った所に、余崎城主村上吉豊の建立になるという厳島神社が鎮座する。その境内にある手水鉢は、まさしく奇石という姿にある。

資料（『歌島の盃状穴・奇石・珍石』）によれば、「二個の自然石を扇形に組合わせて、別に台石を付けた手水鉢」とあるが、一見して人面石ではないかと驚いた。

即ちハの字型の切れ目が垂れ下がって閉じたような両眼、その下の出っ張りが鼻、そして水を湛える手水が開いた口と…。

来歴について前掲資料は、向島に所在した富島家の茶園「海物園」の内に在ったものではないかと想像している。

尚、同社の例祭では、提灯で飾られた船が巡幸する管絃祭も伝わる。

Heritage of Mukaishima/Iwashijima
石奇ノ社神島嚴汐干　拾弐

21 夢の跡の加島を望む

【向東・加島】

向東から百島を望むと、手前に小さな島が見える。現在は無人島だが、かつては一つの村を成した加島である。

戦後は加島海水浴場で親しまれた島でもあったが、その昔の昔、江戸時代には島全体が私有地、別荘でもあった。

尾道では古く別荘・庭園を茶園と呼称したが、加島は「賀島園」と称され、それは尾道の豪商・松本家が開いたものだった。

もともと無人島だったこの島を、政治献金か何かの見返りとして広島藩主より賜った松本家は、風流な茶園として開拓・整備したのである。

時代を通して外からの往来で賑わった楽園の島も、今はまさに夢の跡の如く…

ム望ヲ島加ノ跡ノ夢　壱拾弐

Heritage of Mukaishima/Iwashijima

22 神仏のサロン的空間

【向東・古江浜】

古い入り江を示す地名らしい古江浜（こえはま）には、伝説も含めて史跡が多い。

その一つ、船戸（ふなと）神社は神仏に伝説スポットも加わり、賑やかな集合体を見る。

お宮はエビス神と厳島姫に塩作りの神を祀る胡神（えびす）社とコンピラさん（金比羅社）、お伊勢さんの大神宮、これに並ぶお堂は島四国・向島八十八ヶ所第26番金剛頂寺（西寺・本尊は薬師如来）のお堂。

更に元は和泉式部（いずみしきぶ）お手植えと伝えた下り松が在ったが、今はその跡を偲ぶ石碑が建つのみ。

年季と風雪を重ねた木造の鳥居も味わい深い。

間空的シロサノ佛神　弐拾弐

Heritage of Mukaishima/Iwashijima

23 小田原大造の故郷孝行

【向東・古江浜】

古江浜公民館前に建つ頌徳碑は、農業工作機械製造大手・クボタ鉄工中興の祖（3代目社長）と仰がれる小田原大造氏（1892～1971）の遺徳を讃えるもの。

同氏は向東古江浜の出身になり、大阪商工会議所第17代会頭も務めて大阪万博の誘致や大阪国際空港の拡張などにも尽力した、関西の経済界を支えた大物でもあった。

碑文には、昭和37年（1962）に古江浜才越地域内の県道・農道改良、区内の開発事業に伴う地元負担金210万円が、大造氏から寄贈された事を記す。

加島にも電気施設寄付に対する同様な顕彰碑が建つ。

行孝鄉故ノ造大原田小　　參拾弐
Heritage of Mukaishima/Iwashijima

24 冠天神と冠岩

【向東・古江浜】

古江浜を見下ろす小高い山（天神山）の上にある天満宮の社は、冠天神と通称される。

都から九州大宰府へ落ちゆく菅原道真公は、この所へ船を寄せ、里人のもてなしを受けた。その時、岩の上に冠を置いて休まれ、後にその岩は冠（烏帽子）の形にも似て冠岩と名付けられ、冠天神の御神体ともなった。

江戸時代の頃、冠岩を雨風から覆うべく神殿の建築が発起されたが、にわかに山が鳴動し、これは神意に背くものに違いないとして取止められたと伝える。

菅公の伝説は本土尾道側が名高いが（御袖天満宮）、向島西（宇立）にも同様な縁起を伝える笏天神がある。

岩冠ト神天冠　　四拾弐
Heritage of Mukaishima/Iwashijima

25 生き続ける和泉式部の伝説

【向東・歌】

向東の伝説で最も色濃くあるのが和泉式部にまつわるお話。

船戸神社の他にお手植え松は向東八幡神社（東八幡宮）にも伝わり、他にも池に棲む龍を鎮めたといった話も聞かれるなど、その分布はやはり色濃い。

向東の歌の浦も、歌人として知られる和泉式部が住んだ跡といい、向島を古く歌島、歌の島と呼んだ源もここにあるともいう。

歌地区に所在する歌島山西金寺の墓所一角には、和泉式部の墓とも、或いは供養塔とも伝える五輪塔があり、そこに手向けられた生花からも、伝説が今も尚生き続けている事をそっと偲ばせる。

説傳ノ部式泉和ルヶ續キ生　　伍拾弐
Heritage of Mukaishima/Iwashijima

26 ゆうがさんの祭り

【向東・新開】

向東町新開地区に祀られる瑜伽大権現は、江戸時代に疫病が流行した折、倉敷児島の瑜伽大権現（由加山由加神社）の分霊を勧請し、その鎮静厄除けを祈った事に始まる。

地域では「ゆうがさん」の呼び名で親しまれ、夏の例祭「ゆうが祭り」では、麦藁で作られた人形飾りが境内及び沿道に並ぶ。

人形は昔話や時事ネタ、その年の流行もので作られ、地域住民の奉仕により、毎年趣向を凝らした力作が参詣客を楽しませる。その昔は夜店も立つ賑わいだったとか。

お宮が建つ敷地は尼寺の跡で、門柱に残る「壽量庵」の表札と、石仏・石塔がその名残を留めている。

リ祭ノンサガウユ　六拾弐

Heritage of Mukaishima/Iwashijima

27

天女浜（てんにょはま）のイワレ

【向東・天女浜】

向東も尾道水道に面した側には塩田が広がった。天女浜も然りで、児童公園の一角に建つ天女浜神社は、塩田時代を偲ぶ歴史の跡。

沖明神と通称されたこのお宮に秘める昔話に、人柱の話がある。

沖明神前の浜が毎年のように決壊し、人々が困り果てていた時、ある里人が綺麗な女性が人柱になる夢を見た。

その後、夢に見たのと同様に綺麗な女性が里の内から見つかったが、素性も全く知れぬ人だったという。

信仰生活に身を置いていた女性は人柱を快諾し、自分がしたためた経文と共にその身を投じた。

以来決壊も無くなり、人々は女性を天女と呼び、いつしか浜も天女浜になったと…

明治三年庚午

28 雨乞い祈る慈雨（じう）踊り

【向東・肥浜、矢立】

その昔、山の上で火を焚き、鉦や太鼓を叩いて雨乞いをする風習が各地に見られたが（山の名は龍王山とする所が多い）、今に伝える例は少ない。

そうした中で、雨乞いの芸能を今に伝承する向東町肥浜（ひばま）・矢立（やたて）両地区の雨乞い踊りは注目される事例の一つ。

「慈雨踊り」と称されるそれは、江戸時代後期からの伝統を汲み、現在は子ども会を担い手として伝えられる。

7月の終わり、地区の龍王山で神事が行われた後、児童・園児が揃いのハッピを身にまとい、大小の太鼓を打ちながら地区内を囃（はや）して回る。※写真は肥浜地区。

リ踊雨慈ル祈ィ乞雨　　八拾弐
Heritage of Mukaishima/Iwashijima

29 お藤の方と恋浜・悲浜

【向東・肥浜】

室町幕府最後の将軍となった足利義昭は、信長に追いやられ、毛利を頼って備後鞆の浦へしばし身を寄せた事はよく知られる。

周辺には義昭にまつわる伝説が点々と分布するが、向東にも来島した義昭が衣を掛けたとする「羽衣の松」と呼ばれるものがあったが、枯れて今に残らない。

それに付随して伝わるもう一つの伝説が、義昭の側室・お藤の方にまつわるもの。

肥浜にはお藤の方の庵があったといい、義昭恋慕のお藤の方を偲び、恋浜・悲浜、それが転じて小肥浜、肥浜になったとも。

住宅街の一角に、お藤の方を供養する五輪塔が静かに佇む。

濱悲・濱戀ト方ノ藤オ　九拾弐　Heritage of Mukaishima/Iwashijima

30 幻の太閤川を再発見

【向東・肥浜】

肥浜西北の山の中に、「太閤川」と呼ばれる浅井戸があり、その名の通り太閤豊臣秀吉にまつわる井戸で、夏には冷たく美味であり、ここを通る人は必ず飲んだと伝える。

その所在については不明であった為、今回のピックアップから漏れ落ちるところであったが、現地確認を重ねる事で、半ば幻となっていた太閤川を確認する事ができた。

所有者である同地の浜岡孝志さんによれば、秀吉伝説は祖父から伝え聞き、朝鮮出兵にまつわるものとか。別に帆船時代の船乗りが、この井戸から水を補給したとの伝聞も聞かれる。

井戸の事を川と呼称する例は全国的にあるようで、岩子島にも聞く。

見発再ヲ川閑太ノ幻　拾参
Heritage of Mukaishima/Iwashijima

31

壮麗なる東八幡宮の威容

【向東・森金】

旧向島東村の氏神である東八幡宮（通称・東の宮）は、宇佐八幡宮（宇佐神宮）の御分霊を勧請して創祀され、和泉式部の伝説も秘める（境内にゆかりの松あり）。

社殿の造営は小歌島（岡島の表記もあり）城に拠った村上吉満・吉秋の手になり、中世から近世にかけて整備及び再建が行われたようである。

大祭に見られる「オハケ祭（神事）」は、当屋組織で担われる伝統的な儀式として、市の無形民俗文化財にも指定される。

東八幡の神域・鎮守の杜は広く、その中にスケール大きく鎮まり建つ拝殿建物は、一際壮麗に映える。

容威ノ宮幡八東ルナ麗壯　　壱拾参
Heritage of Mukaishima/Iwashijima

32 岩子島製錬所と公害秘史

【向島・岩子島】

向島大橋を望む岩子島東南の海岸沿いに、黒い塊の群が干潮時に姿を現す。黒い塊は鉱滓（鉱石を金属精錬した際の残りカス）になる。

この鉱滓の残骸は、かつてこの地に在った岩子島製錬所の痕跡を今に留めるもの。

製錬所は明治28年（1895）、国内鉱業界中興の祖と仰がれ、八幡製鉄所の創設にも貢献した工学博士・大島道太郎氏が自費を投じて開いたものになる。

しかし操業から間もなく、煙突から吐き出される硫黄を含む煤煙が対岸津部田村の農産物や人体に影響を及ぼす事になった。

住民は製錬所を誘致した岩子島村長に猛抗議し、村長はこの騒動で引責辞任に追い込まれる事になり、製錬所は操業から僅か数年（明治30年頃）で廃止。この一件は、広島県で最初の公害反対運動ともなった。

史秘害公ト所練製島子岩　弐拾参
Heritage of Mukaishima/Iwashijima

33 手掘りのトンネル

【向島・岩子島】

岩子島の真ん中辺りを東西に貫く道（市道）には、人力で掘られた手掘り（素掘り）のトンネル（隧道）が二ヵ所見られる。

東側に「岩子島隧道」（写真左）、西側に「浜之浦隧道」（同右）とあり、岩子島隧道は長さ94m、幅3・8mで、昭和26年（1951）の築造。

浜之浦隧道は長さ71m、幅2・8mで、昭和33年（1958）の築造になる。

浜之浦の方は、大林宣彦監督作品・新尾道三部作「ふたり」のワンシーンともなった（マラソン大会のシーンにて）。

尚、手掘りのトンネルは高根島（瀬戸田）にも見られたが、こちらは拡幅工事で姿を消した。

ルネントノリ掘手　　参拾参

Heritage of Mukaishima/Iwashijima

34 岩子島に見る宮島的風景

【向島・岩子島】

浜之浦隧道を抜けると、明るい空と海が視界に広がる。坂を下ると海水浴場だった岩子島西南岸のビーチへ至り、そこには宮島を模したような赤い鳥居が建つ。

この海浜は岩子島に見る厳島神社の神域（境内）の内になり、ビーチ後背にその社殿が控える。

厳島姫の神が宮島に落ち着かれる以前、定着するに良き島を求めて芸予（げいよ）の島々を巡られた際、岩子島も候補として目を留められた。その伝説を縁起として、この所に厳島神社が創祀（そうし）される事になったという。

波音だけが響く静寂なる神域は心地よく、しばし安息の時を与えてくれる。

景風的島宮ル見ニ島子岩　四拾参

Heritage of Mukaishima/Iwashijima

35 赤穂浪士・四十七士の奉納画

【向島・岩子島】

岩子島厳島神社の拝殿外側には、赤穂浪士四十七士の絵がズラリと掲げられる。

添付された概要板によれば、昭和10年（1935）3月に、氏子の手によって寄進されたものらしく、絵師は「兵庫県明石市楠　竹風」とある。

いわゆる絵馬の扱いに等しいものと思われるが、赤穂浪士を画題として納めたその経緯については分かっていない。

風雨に晒される屋外ながら、ガラスで額装されている事もあって、保存状態は概ね良い。

尚、本土側の東土堂町・曹洞宗天寧寺にも赤穂浪士の書画（軸装）が伝わるが、こちらも詳しい来歴は分かっていない。

画納奉ノ士七十四・士浪穂赤　　伍拾參

Heritage of Mukaishima/Iwashijima

36 可愛らしい玉乗り狛犬

【向島・岩子島】

岩子島厳島神社の拝殿裏へ回ると本殿が続き、その本殿両脇に小さな狛犬が一対控える。

刻銘によると明治15年（１８８２）９月の造立で、願主（造立発起及び奉納者）は力石萬助とある。

大きな玉に前足を掛けた玉乗りのスタイルは、尾道型とも広島型とも言われる意匠で、尾道石工の腕の見せ所でもあった。

通常スケールの玉乗り狛犬は、市内外に大小多々見受けられるが、ここまで小さなタイプは余り見かけない。

威厳のある神域の中で、子犬のように可愛らしいその姿に、どこかほっこりとさせられる。

犬狛り乗玉イシラ愛可　六拾參
Heritage of Mukaishima/Iwashijima

37 今もあらたかなる子宝・安産の塩釜神社

【向島・岩子島】

岩子島の北西部、尾道水道にも程近い山野の中に、古びた社がひっそりと佇む。

お社は陸奥国の一之宮である鹽竈神社（宮城県塩釜市）の分社になる塩釜神社で、塩作りや潮流を司る神を主神として祀るお社。

現在は埋め立てられて海との間に距離があるが、それ以前は海辺に位置した。

よって製塩や航海に関わる信仰の対象になるのが基本になるが、こちらでは子宝や安産の祈願でも信仰を集めているのが珍しい。

一説に海（ウミ）が「生み」に通じての事ではないかとされ、戦前から戦後にかけてその信仰は盛んだったという。

霊験授かり子宝に恵まれた人が多く、遠方からの参詣もあり、近年再び注目を集めている。

社神釜盤ノ產安・宝子ルナカタラアモ今　七拾參

Heritage of Mukaishima/Iwashijima

38 島四国（しましこく）の風景

【向島・向東・岩子島】

四国八十八ヶ所のローカル版として、瀬戸内の島々には「島四国」と呼ばれるご当地八十八ヶ所の信仰分布が、広範囲に見られる。

向島及び岩子島にもそれぞれ島内八十八ヶ所の寺堂・祠（ほこら）が設けられ、旧暦の3月・新暦4月の頃には、「お大師さん（おだいっさん）」と呼ばれるお接待で賑う。

お接待では、市販の菓子やパンの他に、世話人による手作りの品もあるなど、札所（ふだしょ）毎に特色が見いだせる。

現在はコロナ禍により休止が続いているが（令和3年時点）、絶やしたくはない民俗信仰の風景であり、受け継ぎたい故郷の風景である。

※写真は岩子島のお接待での一コマ。

景風ノ国四島　　八拾参
Heritage of Mukaishima/Iwashijima

参考文献

『備後向嶋岩子島史』菅原守編著、１９３８
『歌島地名考』歌島郷土研究会、１９８４
『向島町民俗資料第五集　向島の石造物』向島町教育委員会、１９８４
『尾道の民話・伝説』尾道民話伝説研究会、１９８４
『民俗資料第八集　向島の民俗（改定版）』向島町教育委員会、１９８８
『チクマ離島シリーズ　向島町』向島町役場編、千曲秀版社、１９８８
『歌島の地名あれこれ』歌島郷土研究会、１９８９
『むかしの古江浜　尾道市向東町古江浜の郷土史』冠野勤著、歌島郷土研究会、１９９１
『向島町民俗資料集第十集　向島の文化財（第三版）』向島町教育委員会、１９９２
『広島県神社誌』同編纂委員会・広島県神社庁　１９９４
『歌島の盃状穴、奇石・珍石』歌島郷土研究会、１９９７
『歌島の昔話・民謡』歌島郷土研究会、１９９９
『向島町史』同編纂委員会・向島町、２０００
「瀬戸内しまなみ大学　わが島の自慢マップ　向島・岩子島編」島ん倶楽部、２００２
『有史讃歌―写真でつづる向島―』向島町教育委員会・向島町文化財保護委員会、２００２
『ふるさと　いまむかし』土本寿美、２００５
『備後加島園跡　近世町人文化遺跡の基礎的研究』八幡浩二、尾道大学地域総合センター、２００８
「尾道商業会議所記念館第14回企画展示解説　尾道企業家列伝
―尾道ゆかりの先人企業家たち―」リーフレット、２０１０
「尾道商業会議所記念館第20回企画展示解説　尾道に花開いた茶園文化」
リーフレット、２０１３
「尾道市久山田町の伝承文化１　平成二十三年　二十四年度の調査研究」
尾道市立大学伝承文化研究室『尾道市立大学地域総合センター叢書７尾道学の可能性』
尾道市立大学地域総合センター、２０１４
『向東町の歴史と文化財』森重彰文監修、榊原恒司著、豊田眷互共著、
ＮＰＯ法人尾道文化財研究所、２０１５
「山陽日日新聞」及び「尾道新聞」報道記事より

尾道文化遺産マップ3
絵葉書帖「むかいしま・いわしじま」編

表紙写真
写真絵葉書　尾道千光寺山展望　戦前　尾道市史編さん委員会事務局蔵

写真・編集・デザイン
西川　真理子（尾道チャノマ図案室）

写真提供
せいのカメラ店（絵になる水面　川尻新池）
岡田政照（ゆうがさんの祭り）
柿本和彦（雨乞い祈る慈雨踊り）
川口雅司（島四国の風景より岩子島のお接待）
林　良司（龍王山、収容所跡プレート、向島中女神像、お藤の方供養塔、太閤川、岩子島製錬所跡）

協力
尾道市向島支所しまおこし課　岡田政照
亀森八幡宮　柿本和彦
嚴島神社（富浜）　浜岡孝志
尾道市立向島中学校　東八幡宮
長福寺　嚴島神社（岩子島）
西金寺　西井　亨

企画・制作・発行
尾道文化遺産塾実行委員会
事務局　尾道市企画財政部文化振興課

発行年月日　令和四（二〇二二）年　三月

文化庁「地域文化財総合活用推進事業」助成

Post Card

令和4年度
文化庁